

インターンシップ体験記 （海外インターンシップの場合は英語で記入）

インターンシップを決めるまで

目的の通り、国内企業に絞ってインターン先を探した。インターン先を本格的に探し始めたのは博士後期2年の夏ごろで、国際会議や学術雑誌などに研究発表することが業績としてみなされるような企業を探していた。そのような企業の選択肢はかなり絞られるが、たまたま SNS で見かけたオムロンのインターン募集が自分の興味と合っていたので、申し込むに至った。オムロンサイニックス（以下 OSX）の CEO である諏訪さんは HW のアドバイザー委員の一人でもあり、まず諏訪さんにメールでコンタクトを取って、インターン採用担当の方につないでいただいた。インターンの採用フローは、履歴書を提出した後に一度面談をして合格すれば採用という形であった。私の場合は10月末に諏訪さんに連絡をし、履歴書を提出した数日後に面談を行った。面談は2人の研究員に自分の研究について15分程度プレゼンするものであった。たまたま面識のある研究員の方だったので比較的落ち着いてプレゼンができ、幸い採用していただけた。インターンの仕事内容は事前に決めることはなく、インターンがオンサイトで始まってからだった。

インターンシップ先での活動

OSX はオムロンの研究の最先端を担っており、経験豊富な20人程度の研究員と数人の事務員さんで構成されている。コンピュータビジョンなどの知覚、ヒューマンインタラクション、ロボティクスの大きく分けて3つの研究グループがあり、各研究員がインターンの学生を多数雇って研究を進めていた。OSX の研究成果は随時ホームページに掲載されていくので、ホームページにいけばより詳しい内容を見ることができる。インターンの学生は直感的には7割が学士修士、3割が博士の学生だったと思う。私はロボティクスグループのインターン学生として“俊敏なロボットの機構・システムの開発”のテーマでフルタイム勤務をしていた。完全フレックスだったが基本的には9時～17時半、昼休憩45分で働いていた。毎月新たな学生がやってきてどんどん入れ替わるので、月に一回歓迎と送迎を兼ねたランチパーティを行っていた。研究員と学生は非常にフレンドリーにコミュニケーションをとっており、とても風通しの良い職場だったと思う。

OSX はオムロン本社から出る研究費だけでなく科研費等も獲得しており、研究するのに十分な資金力があるように感じた。実際、ロボットの設計には自分の使い慣れたソフトウェアの商用ライセンスを買っていただき、ロボットに必要なパーツや工作道具も大体好きに買わせてもらっていた。企業のニーズを意識しつつも研究内容についてかなり自由に研究員が決められるので、研究者にとってはかなり理想的な環境だと感じた。

インターンシップ得た知識

本インターンシップを通じて、複数人でプロジェクトを進めるためのノウハウを学ぶことができた。所属する研究室では基本的に一人で研究をしているのであまり Git などを使うことはなかったが、複数人でプロジェクト管理をするには Git のような共有ツールが必要となる。Microsoft の onedrive も簡単にファイル共有、共同編集ができるのでとても便利だった。複数人でプロジェクトを進める恩恵の中で一番大きいと思ったのは、各々がプロジェクトの進行を監視できるので限られた時間の中でできるだけ大きな進捗をうむための最適に近い選択をしやすいことである。一人が方向性を決めたときにすぐに他の人がレビューをして修正を加えられることが仕事の効率に良い影響を与えていたと思う。

インターンシップ体験記 (続き)

本インターンシップのロケーションを利用して関東圏のいくつかの企業に職場見学に行くことができた。普段関西圏に住んでいると、金銭的・時間的コストを考えてなかなか気楽にいけないのでとても貴重な機会だったと思う。

インターンシップ先での生活

OSX のオフィスは東京文京区の東京大学のすぐ近くにあり、歩いて行ける距離に東京ドームや上野公園があるような場所だった。オフィスから歩いて5分程度のところのマンスリーマンションを会社で借りていただきそこに住んでいた。半年という短い滞在なので家具一式が諸々揃っているマンスリーマンションはとても便利なのだが、業者がいくつも関わっているのも、エアコンの故障などがあったときにはオーナーさんに連絡がつくまでとてつもなく時間がかかり面倒になる（実際にあった）。とはいえ、引っ越しは身軽にできるのはやはり助かる点が多く、ヤマトの“わたしの引っ越し”というサービスを使って3万円程度で半年生きていくための装備を自宅から持ってくることもできた。最寄り駅は本郷3丁目という駅で東京駅から東京メトロ丸ノ内線で2駅という場所だった。レジャー施設が数えきれないほどたくさんあり、休みはほとんど外出をしていた。買い物に行くときは東京ドームシティやスカイツリーのあるソラマチによく行った。特にソラマチは観光地としてだけでなくショッピングモールとしても大きく、服から食べ物まで様々なお店が入っていてとても便利だった。上野公園や皇居のまわりにいくつか大きな美術館があり、興味深い展示がたくさんあったので深く印象に残っている。春には家から浅草と隅田川まで頑張って歩いてお花見ができた。隅田川公園にはたくさん屋台が出ていて人もたくさんいたが、隅田川の堤防まわりは比較的空いていてちょうどいいお花見スポットだったと思う。家のすぐ近くに湯島神社があったのだが6月頃にその神社に関わる祭りが開催され、上野まわりの人通りの多い道中をたくさんの神輿が往来し、とても賑やかだった。祭りの服や浴衣を着た人が何人もいて、活気盛んな雰囲気は東京ならではのものかもしれない。家の周りにはたくさんの飲食店があった。チェーン店だけでなくSNSなどでよく見る著名なラーメン屋などもあり、さすが東京だと感じるものが多々あった。とはいえ普段から外食していると食費が馬鹿にならないので比較的安価なスーパーを探してなるべく自炊をするようにしていた。首都圏は関西圏と比べてやはり少し物価が高かった。

OSX で過ごす一日を想像しやすいとてもよい記事がOSXのホームページに掲載されているのでこちらもぜひ参考にさせていただきたい (<https://medium.com/sinixx-ja/archive/2021> からオムロンサイニクエックスの1日)。OSXでのインターンシップはフルタイム勤務の場合月24万の給与が出て（パートタイムだと時給制）、阪大生のように東京に住んでいない学生には会社がほぼ無償で賃貸を借りてくださるので学生にとってはとてもよい待遇だと思う。経験豊富な研究員のみなさんに直接関わられるだけでなく私生活も充実させることができるので、都心に数ヶ月住んでみたい人に特におすすめのインターン先だと思った。